

- 柔軟処理衣料の吸水性について -

ライオン家庭科学研 ○森 貞光・井口好江・田中丈三・永山升三

〔目的〕ジオレイルジメチルアンモニウムクロライド（D O）を用いた柔軟仕上げ剤の繊維に対する吸水性を明らかにするために、柔軟仕上げ剤処理した衣料の吸水性と密接な関係にある衣服圧をかけた時の接触吸水速度及び接触吸水量について処理濃度を変化させて検討した。対照として、従来多く使用されている柔軟仕上げ剤の成分であるジ硬化牛脂アンモニウムクロライド（D S）を用いた。更にバンドルテストにより、着用・洗淨・柔軟仕上げを繰り返した場合の各種衣料の吸水性の変化について調べた結果につき報告する。

〔方法〕試料には、弱アルカリ洗剤で洗淨及び洗淨後各々D O処理またはD S処理した綿タオル、綿メリヤス、ポリエステルジャージを用い、使用濃度を変えて接触吸水量測定法により吸水性変化を測定した。繰り返し使用による影響については、成人男子20名にて、綿肌シャツの着用と実験室での洗淨・柔軟仕上剤処理を20回繰り返し実施した。

〔結果〕D S処理した衣料の吸水速度、吸水量は、洗淨のみの場合に比べ低下し、特に綿繊維において処理濃度が増加するほど、さらに、接触吸水時の加圧が小さいほど低下の程度が大きくなる傾向を示した。これに対しD O処理した衣料では、吸水速度・吸水量とも洗淨のみの場合と略同等であり、処理濃度が増加しても、顕著な低下は認められなかった一方、着用・洗濯・処理をくり返したバンドルテストの結果においても、D S処理の衣料には吸水性の低下が認められるのに対し、D O処理した衣料では、D S処理したものよりも優れた着衣時の吸水性・吸汗性を示した。